

学校だより 12月号

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

令和元年 12月2日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

URL

<http://koya-e.konosu.ed.jp>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



「自分の生き方」が子どもを育てる ～「口」で伝えるよりも「姿」で見せる～

校長 池澤 道弘

昼間はまだ比較的暖かですが、朝晩は寒さを感じる日も多くなり、冬の訪れを感じる頃となりました。11月9日の小谷小まつりでは、PTA役員の皆様、おやじの会の皆様、文化財保存会の皆様、地域の皆様、そして保護者の皆様に大変お世話になりました。手前味噌で恐縮ですが、第1部の「校内音楽会」では、どの学年も昨年以上に充実した内容だったのではないかと感じました。また、第2部の「ふれあいタイム」では、おいしいお餅や豚汁、焼き芋を楽しんでいただけたことを大変嬉しく思います。本校の一大イベントである小谷小まつりは、正に学校・家庭・地域が一体となった行事であることを再認識いたしました。たくさんの皆様に支えられて小谷小まつりが盛況のうちに無事終了できましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、今回は11月16日に行われた鴻巣市PTA連合会主催の研究大会・家庭教育学級で講演していただいたお話をご紹介します。今年度は、東京成徳大学応用心理学部教授の石崎一記先生から「子どものために親が学ぶべきこと」という演題でご講演いただきました。90分の講演でしたが、石崎先生が終始柔らかな表情で、実体験等を交えながら分かりやすくお話してくださったので、とても楽しく聴くことができました。たくさんの示唆をいただいたのですが、私はその中で「自分の生き方で伝える」というお話がとても心に残りました。

このお話の中には、アルバート・バンデューラというカナダ人心理学者の実験が紹介されています。バンデューラは、大人が「ボボ人形」というプラスチック製で、空気を入れて膨らませた起き上がりこぼしのような人形に乱暴する3種のVTRのうちのひとつを子どもに見せ、その後同じ部屋に子どもを入れて、暫く待たせている間に乱暴な行動をどれくらいしたかという実験をしたそうです。3種の内訳はA：別の大人は出てこない B：別の大人が乱暴な行動を叱る C：別の大人が乱暴な行動を褒める というものです。さて、乱暴な行動をした子どもはABCでどう違ったのでしょうか。条件から考えるとCが一番多く、次がA、そしてBはほとんどいないような気がしてしまいます。しかし、実際はAとCはほぼ同じで、多くの子どもが大人と同じように「ボボ人形」に乱暴な行動をしたのですが、問題はBの子どもたちもA、Cよりは少ないものの、やはり多くの子どもが乱暴な行動をしたという結果が出たそうです。

この結果から分かること、それは子どもは「見るだけで行動を学習する」ということです。乱暴な行動を叱られているVTRを見た子は「やってはいけない」という心理よりも「バレないようにやればいい」という心理になるのだそうです。この実験が教えてくれること、それは大人が「〇〇しなさい」と言葉でいうよりも、「一生懸命働いている姿」「ボランティアをしている姿」「仲間と楽しんでいる姿」など、子どもに伝えたいことを見せてあげることが大切だということです。人は誰でも、自分はやらないくせにを「〇〇をやれ」という人は嫌いです。学校教育においても「後ろ姿で教育する」という言葉があります。言い換えれば、私たちが思うよりずっと子どもたちは大人の行動をよく見ているということなのでしょう。

石崎先生の講演の最後には、「親は子どものためだけに生きているわけではない」「親自身が『自分を生きている』ことが子どもの教育には一番大切」というお話でまとめをしていただきました。「自分の生き方で伝える」私たち教師も含めて、子どもに関わる大人が心に留めておかなければならないことだと感じた家庭教育学級でした。

